

2020年8月17日

地域の皆様へ

総合病院 南生協病院

院長 長江浩幸

あらためて、地域みんなで感染予防に取り組みましょう

1.地域みんなで感染予防に取り組みましょう

2月から始まった、新型コロナウイルス感染が続いています。

7月は、20代、30代の方が中心でしたが、最近は全世代に感染が広がっています。

新型コロナウイルスは、若い人にうつっても、何も症状が出ないか、ちょっとした風邪くらいですむことがほとんどです。しかし、高齢の方や、もともと病気をお持ちの方にうつってしまうと、重い病気になって、時には命にかかわることもあります。

今、いちばん大切なのは、みんなが新型コロナウイルスを防ぐという強い気持ちでつながり、気が付かないうちに誰かにうつさないよう、ひとりひとりが感染の予防に取り組むことです。

家族・会社・友人といったつながりの中で、次の3つのことにみんなで取り組みましょう。

【1】しっかり手洗い（外から帰ったとき、登校したとき、入社したときなど）

どこかに触る前に、手についているかもしれないウイルスを洗い流すために、20秒以上かけて、ゆっくりていねいに手洗いをしましょう。

自分がうつらないためだけでなく、人にうつさないために手洗いをすると考えましょう。

手を洗っていない人がいたら、そっと声をかけましょう。

もっと楽しく手洗いができるやり方を見つけたら、それを誰かと共有しましょう。

【2】せきエチケット（せき・くしゃみのとき）

せき・くしゃみのときはマスクをつけるか、とっさのときは口や鼻をハンカチや肘などで覆いましょう。

飛び散ったウイルスを他の人がすいこんだり、誰かが触るかもしれない場所にウイルスがつくことを防ぐことができます。

マスクをせずにせきやくしゃみをしている人がいたら、もし可能ならそっとマスクを渡してあげましょう。

※熱中症を防ぐために、屋外で人と離れているときはマスクを外しましょう。

※マスク着用時は激しい運動は避け、こまめに水分を補給しましょう

【3】熱や鼻水・咳の症状があるときは家で休む

外に出ず、家でゆっくり休みましょう。

2. 今こそ、人と人のつながりを大事にしましょう

～つながりを絶やさない～

新型コロナウイルス対策が悩ましいのは、人と人とのつながりが途絶えたり、それぞれの役割のある場所が失われたりしがちな点です。

社会から孤立したり、役割がなくなったりすることもまた、深刻な不健康につながります。感染に十分注意する一方で、人と人のつながりを絶やさない工夫も続けていきましょう。

～新型コロナの3つの「感染」～

2月に他疾患で入院中の患者様が新型コロナウイルスと判明した事態では、地域の皆さんから、「南生協病院は正直に発表してくれて安心した」「がんばれ」「頼りにしてるよ」など、多くの励ましの言葉をいただきました。

一方で、「南生協病院に受診した夫が勤務先で出勤停止になった」「保育園から南生協病院の職員の子はしばらく預かることができないと言われた」といった悲痛な声も複数寄せられました。保育園・小学校・勤務先の方々に、当院から丁寧に説明させていただくことで多くはご理解いただけました。何が正しいのかがわからない中で、皆さん、不安で悩みながら対応されていることがわかります。

新型コロナウイルスは「病気」が感染するだけでなく「不安」「差別」も感染するといわれています。

新型コロナウイルス感染症がなかなか収束しない中、地域の皆様とともに「病気」「不安」「差別」の3つの感染への対応が重要です。

～思いやりといたわりの心で～

新型コロナウイルスには、誰もが感染する可能性があります。

高齢の方や妊婦の方など、感染リスクの高い方には特に配慮しましょう。

誤った情報や思い込みに振り回されないようにしましょう。マスクを着けていない人も、ひょっとしたら何か事情があるのかもしれない。

感染された方には、まずはいたわりの言葉をかけましょう。

3. 最後に～南生協病院の使命～

新型コロナウイルスの感染拡大が続くなか、医療機関では、“身近に感染者がいる”ことを想定した対応が求められています。

緑保健センター、地域の開業医の先生方、藤田医科大学病院や近隣の病院と連携し、感染対策に取り組んでいます。今後も、緑区で最大の二次救急病院として、地域のみなさんの安心安全を守るために役割を果たしてゆく決意です。